様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 ２３ 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2013～2014
課題番号：２５６７０９８８

研究課題名（和文）入院中の統合失調症者のメタ認知の向上を目指した看護介入の効果

研究課題名（英文）Effect of nursing intervention aiming at improvement of the meta recognition of the person with schizophrenia

研究代表者
森　千鶴（MORI, Chizuru）

筑波大学・医学医療系・教授

研究者番号：００２３９６０９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,100,000円

研究成果の概要（和文）：統合失調症者の対人機能の基盤になっているメタ認知機能の向上を目指した看護介入プログラムを作成し、その効果を明らかにすることを目的とした。看護介入プログラムは、心理教育、ワークシートを用いた面接を6回で構成した。同意が得られた対象は、男性、女性各1名であった。メタ認知機能を測定する尺度MAS-Rは、日本語版を作成し、妥当性が確保された。介入によって男性は、改善が認められなかったが、女性には有用性が示された部分も認められた。しかし本研究における信頼性はやや低く、対象者数が少ないことと関連があると考えられた。今後も検討を重ねていきたい。

研究成果の概要（英文）：I made the nursing intervention program that aimed at the improvement of the meta cognitive function that became the base of the interpersonal function of the person with schizophrenia and was intended that I clarified the effect. The nursing intervention program composed psychology education, the interview using the worksheet of six times. The object that an agreement was provided was man, woman for each one. Standard MAS-R which measured a meta cognitive function made a Japanese edition, and validity was secured. As for the man, improvement was not accepted by intervention, but the part that usefulness was provided to a woman was recognized. However, the reliability in this study was slightly low, and it was thought that it was related to there being little number of the target people. I want to repeat examination in future.

研究分野：精神看護学

キーワード：精神看護学　統合失調症者

１．研究開始当初の背景

メタ認知機能は、認知をモニタリングし、解釈し、評価し、調整する高次の認知機能とされ（Wels, 2000)、統合失調症者の妄想や社会的認知に影響を与えていると推測されている（佐藤,2011；苧阪,2007)。また、メタ認知機能は対人関係などの社会機能、ストレス-コーピング、病識、自尊感情や QOL に関連することが知られており、統合失調症者の回復を目指す上で重要な機能である。しかし統合失調症者のメタ認知機能は、健常者に比較して低いことが報告されている（Lysaker ら, 2012)。統合失調症者の妄想や社会的認知を改善することを目的にしたメタ認知を高めるための介入プログラムが既に開発・実践され（Roncone, 2006；Moritz et al,2007；Roberts et al,2011）表情認知や心の理論スキルなどの社会的認知が改善されることが報告されている（Penn et al,2005；Roncone et al, 2006, Combs, 2007；Penn et al, 2007；Aghotor et al,2010)。これまでの研究における対象者のほとんどが、通院患者であり、また介入に 3～5 ヶ月を要しているものがほとんどであった。

国内の精神科医療は、急性期医療が中心となってきており、平均在院日数は短縮化されてきているものの、再入院の割合が多いという実態もある。統合失調症者の再発を予防するために退院後の生活を支える援助者との関係を構築、維持することが必要となる。そのためには、統合失調症者の対人機能の強化が必要となる（安西他, 2003)。対人関係などの社会機能、ストレスコーピング、病識、自尊感情や QOL に関連するメタ認知機能を高めることで、再発防止の一助になると考えられた。

２．研究の目的

本研究では入院中の統合失調症者のメタ認知機能を向上させる看護介入プログラムを開発し、その効果を明らかにすることを目的とした。

1）　メタ認知機能を測定する Metacognition Assessment Scale 2009-R（以下、MAS-R）（Semerari, 2009）を日本語に翻訳し、日本語版の妥当性を確認する。

2）　介入用のプログラムの効果を MAS-R を用いて評価を行う。

３．研究の方法

1）MAS-R 日本語版の妥当性について

①調査項目及び調査マニュアルについて著者から許可を得、日本語に翻訳し、バックトランスレーションを行った。

②関東甲信地区にある精神科病院に勤務する修士課程を修了した看護師 50 名を対象とした。

③評価項目の妥当性を質問紙で調査を行った。

2）メタ認知機能を向上させる看護介入プログラムの効果について

①入院している統合失調症者 2 名を対象とした。対象者の選定にあたって、TMT（注意機能）と知能検査で著しく低値を示していないことを確認した。

②介入前後に MAS―R、LASMI-I（Life Assessment Scale for the Mentally Ill Interpersonal Relation）社会生活機能評価尺度における対人機能の状態について調査を行った。

③介入前後の会話の内容を IC レコーダーで録音し、逐語録に起こした上で、テーマ単位に分割し MAS-R の評価を行った。なお、逐語録からの評価は、援助者とは別に修士課程を修了した評価者をもうけた。

４．研究成果

1）MAS-R の妥当性について

①評価項目の妥当性を質問紙で調査した結果、修士課程を修了した看護師 26 名から回答を得た。

②評価カテゴリである「自分自身の心の理解」、「他者の心の理解」「心理的制御の問題対処」の 3 つのカテゴリについては妥当であるという意見が多かった。

③また調査項目 20 項目について全員が「妥当である」「やや妥当である」と回答していた。

2）介入内容の検討

①先行研究からメタ認知機能のうち、看護師が日常的な看護の中で実施可能な介入プログラムにするように勉めた。

②セルフモニタリングを高めるために、自分自身の感情に気づくことが重要ととらえ、3 週間 6 回の介入プログラムを作成した。

③感情の気づきを高めるために、まず感情に着目する必要性について心理教育をすることとした。

④心理教育の後、自分自身の感情を高めるようワークシートを用いながら面接を行う。

⑤扱う感情は、「喜び」「驚き」「恐怖」「怒り」「嫌悪」「悲しみ」の 6 種類とした。

⑥各感情について、出来事の想起や日常生活の出来事について語ってもらうような面接構成とした。

⑦心理教育、ワークシート、面接内容については冊子を作成し、毎回対象者に渡し、必要時見ることができるようにした。

3）介入の結果

①研究参加への同意が得られ、全ての介入が終了したのは 2 名（共に 30 代であったが、男性、女性）であった。

②入院からの日数は、10 日目、26 日目であり、男性は 2 回目の入院であったが、女性は 10 回目の入院であった。

③2 名とも非定型抗精神病薬を内服していたが、介入中の変更はなかった。
④対象者の陽性症状、陰性症状、総合精神病理は介入前後で差が認められなかったが、男性の方がやや得点が高く、症状が重い傾向が認められた。
⑤予測性 IQ は、両者ともに健常の範囲であり、有意な差はなかったが、女性の方がやや高い傾向にあった。
⑥注意機能を示す TMT は AB ともに男性、女性ともに介入前よりも介入後の方が短くなる傾向であったが、有意な差異は認められなかった。また、男女で比較したところ、女性の方が短い傾向にあった。

表１　TMT の介入前後の結果

	男性		女性	
	前	後	前	後
TMT-A	32.15	27.45	27.97	19.57
TMT-B	168.36	103.38	101.93	96.79

⑦介入前後の MAS-R の評価をしたのは、男性は前 25、後 30 テーマ単位、女性は前 47、後 50 テーマ単位であった。

⑧本研究における MAS-R の信頼性を示すα係数は全体では 0.75 であった。下位尺度「自分自身の心の理解」0.65、「他者の心の理解」は 0.57、「心理的制御の問題対処」では 0.67 であった。

⑨MAS-R の全体の合計得点は　男性は介入前 6.5、介入後 6.9、女性は介入前 5.9、介入後 8.0 であり、男性には差異が認められなかったが、女性には差異が認められた（ｐ＜0.01）。またカテゴリごとに介入の前後を比較すると女性は、「自分自身の心の理解」と「他者の心の理解」において有意な差異が認められた。

⑩MAS-R のカテゴリ「自分自身の心の理解」「他者の心の理解」に分けて、各項目の変化を対象者ごとに下記に示す。「心理的制御の問題対処」については男女ともに変化が全く認められなかった。

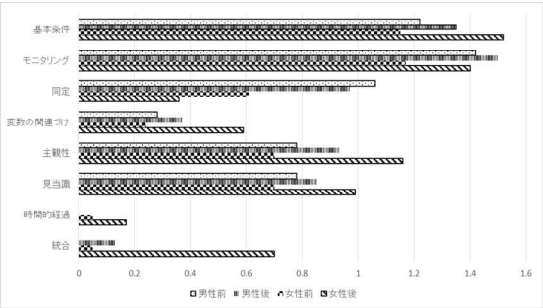

図１「自分自身の心の理解」男性・女性

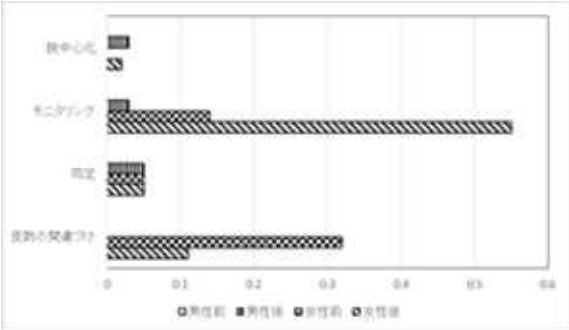

図２　「他者の心の理解」男性・女性

⑪図１，図２に見られるように女性は看護介入によって「自分自身の心の理解」において「モニタリング」、「変数の関連づけ」（ｐ＜0.05）、「他者の心の理解」においては「モニタリング」（ｐ＜0.05）で有意な差が認められたが、男性はどの項目も変化が認められなかった。

⑫対人機能は、男性が介入前 1.54 点から介入後 1.38 点、女性が介入前 1.31 点から介入後 1.38 点になり、改善の傾向を示したが、有意な差は認められなかった。

５．考察

介入プログラムを実施した２名は、健常者と比較すると知能検査は平均的であったが、注意機能は低下していた。また、介入期間中に薬物の変更はなく、抗精神病薬の影響は与えることはなかったと考えられた。

男性は、介入による影響はあまり見られず、介入にも消極的であった。このことは精神症状、知的能力や注意機能の得点が，有意な差はなかったものの女性より悪かったことも関連していると考えられた。女性は介入後にメタ認知に関連する項目の得点が上がり、男性は有意な差が認められた項目はなかった。女性は、メタ認知や社会認知機能を男性よりもうまく実行する可能性がある（Lysaker ら，2012）ことから、女性であることが、介入の効果を出現しやすくしたとも考えられた。しかし、介入を実施できたのが２名のみであったため、介入内容の有用性を述べるのには限界があると考える。また、介入尺度もテーマ単位ごとの場面数は多かったものの、男性は得点が得られなかった内容も多く、信頼性を示す α 係数もやや低値を示す結果になったしまった。さらに昨今の入院期間から、介入期間を１週２回ずつ３週間６回で組み立てた介入の効果を明らかにするのには、期間が短かった可能性も考えられる。

今後は対象者数を増やして検討を重ねていきたい。

【引用文献】

Aghotor, J.et al (2010). Metacognitive training for patients with schizophrenia (MCT): Journal of Behavior Therapy & Experimental Psychiatry,41(3), 207-211.

Lysaker,P. H., et al. (2012) Metacognition and social cognition deficits in patients with significant psychiatric and medical adversity, Journal of Nervous & Mental Desease,200(2),130-134.

Moritz, S., & Woodward, T. S. (2007). Metacognitive training in schizophrenia: From basic research to knowledge translation and intervention. Current Opinion in Psychiatry, 20(6), 619-625.

苧阪直行 (2007) メタ認知と前頭葉　ワーキングメモリの認知神経科学からのアプローチ, 心理評論, 50(3),216-226.

Penn,D et al.(2008)Social cognition in schizophrenia, Schizophrenia Bulletin, 34(3),408-411.

Roberts et al(2011):Social Cognition and Interaction Treatment Manual

Roncone,R et al(2004)Rehabilitation of theory of mind deficit in schizophrenia, Neuropsychological Rehabilitation, 14(4), 421-435.

佐藤徳 (2011) 統合失調症型パーソナリティ傾向者におけるメタ認知機能の失調, パーソナリティ研究, 19(3), 274-277.

Wells A (2000) Setting the stage; Metacognition and Cognitive Therapy. Emotional disorders and metacognition (1st ed.p3-13).New York:John Wily& Sons.

５．主な発表論文等

なし

６．研究組織

(1)研究代表者

森　千鶴 (MORI CHIZURU)

筑波大学医学医療系

研究者番号：00239609